

令和7年度 江戸川区立小岩第五中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな人 ・知性に富む人 ・心豊かな人 ・勤労を尊ぶ人 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を身につけ、豊かな人間性や社会性を育み、個性や特性をお互いに認め合うとともに生き生きと活動でき、規律と活力のある安全・安心な学校 ・多様に変化に富んだ時代に希望をもって主体的・意欲的に生き、将来を切り拓くことができる生徒 ～向上心と自立心の旺盛な生徒・あきらめずに粘り強く主体的に取り組む生徒・他に對して思いやりをもてる生徒・心身ともに健康な生徒～ ・最大の努力を惜しまず、使命感と自己研鑽に励み、学びに向かう意欲を育て、人権に配慮した言動と指導ができ、責任ある職務の遂行ができる教師
前年度までの本校の現状	成果 授業及び学びに向かう姿勢、家庭学習習慣など、基礎学力の定着に向けて課題となる部分を各学年で現状を理解し実行できる計画を考え、共有し、build-up timeや家庭学習ノート（SBS）の活用を深化した。また、分掌主任が中心となって前年度までの行事反省や取組などを見直し、生徒が主体的に取り組めるよう改善した。	課題	素直で元気な生徒が多いが、学習面で課題がある。3年生になると進路に向けて前向きに授業や学習に取り組み始める生徒が多くなることを踏まえ、もっと早い段階で意識できるように各学年、先を見通した進路学習を進めている。また、数学では全学年共通問題でのコンテストを実施する等、楽しみながら学びに向かう姿勢が見られた一方で、その流れに乗れず全く姿勢が変わらない生徒も一部いる。学ぶ姿勢を感じさせ、先を考えて行動できる生徒を増やしていかなければならない。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案	
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント		
学力の向上	○学力の向上 ・基礎・基本の確実な習得 ・家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 ・授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習及び朝学習（build-up time）の確実な実施 ・放課後補習教室の実施 ・各種コンテスト実施及び全学年共通問題での『数学発想力コンテスト』の実施 ・一人一台端末の活用工夫 ・長期休業明け確認テストの実施 ・テスト前質問教室の充実 ・校内研修を通して授業力向上につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・5教科都平均以上 ・各種コンテストの合格率80%以上 ・授業力向上のための校内研修（授業を見あう会・初任者を中心とする多くの学びを得る機会となった。テスト前質問教室は全学年放課後に実施している。 	50	70	C	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の対応の時間短縮などを行い、build-up timeの確実な実施はできた。また、放課後補習教室は担当が積極的に見直し多くの生徒が参加している。学力測定は、全学年5教科ではできるだけ同じ日に行い、コンテストは後期にも多く実施予定。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各種コンテスト等の合格点に向け、朝学習 放課後補習教室などで学習リズムを作っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のよむよむやワーキングメモリの取組などが定着し始め、区の評価にも結果が繋がっている。 ・放課後補習教室も昨年度より生徒が意欲的に休まず参加している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や放課後補習教室で作った学習習慣をこのまま続けていける持続力に繋げていって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のbuild-up timeの確実な実施と充実に向けた登校指導。また、コンテスト等につなげる集中して取り組む環境を呼びかける。 	
	○読書科の更なる充実 ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みの図書室開室 ・学校司書と委員会との連携による企画の実施 ・学校司書と連携した授業の実施 ・読書紹介や調べ学習コンクールの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間貸出平均3冊以上 ・学校司書と連携した授業年1回以上 ・コンクール等を通し情報収集能力や分析力がついたという回答率の向上半数以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書システムの導入により、前期は図書室を開館できない期間が多くなってしまったが、10月に導入後学校司書と連携した授業 ・ブックトークなど実施予定。 	50	70	C	<ul style="list-style-type: none"> ・図書システムの導入により、前期は図書室を開館できない期間が多くなってしまったが、10月に導入後学校司書と連携した授業 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は図書室が利用出来なく残念でした。新しいシステムで図書室の利用者が増えていって欲しいです。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックトークを実施し、図書室に来館、借りる機会が増えたことにより貸出数は上がった。授業でも利用したことで図書を活用した調べ学習もできた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の支援員さんがいる時間が増え、委員会の日に来ていただくことができたことによって、委員の意欲の向上にもつながった。今後も連携を深めていく。 	
体力の向上	○運動意欲や体力の増進 ・運動意欲や基礎体力の向上に向けた取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での縄跳びや筋力トレーニングを取り入れた補助運動の実施 ・レクリエーション要素を交えた運動意欲の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト都平均以上 	70		B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力向上のための縄跳びやレクリエーション要素を含めた短縄跳びなど一学期に実施した。体力テストは昨年度3学年が都の平均を超えたが、今年度はよい結果にはならなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・縄跳びを主にした運動で基礎体力の向上につなげていって欲しいです。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・球技大会の準備・運営を生徒主体からかつ通常手段・特支学校が協力しながら行うことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員と生徒が交流できるような場面を設定し、信頼関係を築いていく 		
	○支援級・通常級の交流による意識・意欲の向上、スポーツテストの実施方法の見直し ○朝トレによる体力増進（支援学級）	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や球技大会等で交流を通して、スポーツテストでは体育係を中心に実施することなどで意欲を高める。 ・朝トレの実施による体力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ年1回程度実施 ・試験前、朝礼時、行事準備などがない限り朝トレは週3回実施（雨天時は体育館で縄跳びを実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会では通常級と支援級合同でリレーや御神楽などを行い、スポーツテストも体育係が先導で実施することができた。 ・朝トレは行事準備等がない限り概ね実施することができている。 	80	80	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会では通常級と支援級合同でリレーや御神楽などを行い、スポーツテストも体育係が先導で実施することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、スポーツテスト、球技大会等通常級と支援級と交流しながら実施することができた。また、区のダンス教室も全学年で実施する。 ・支援級では朝トレの実施により、都陸上大会で多くの生徒が入賞した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝トレーニングで体力もついてきているようです。東京都陸上大会でも多くの生徒が活躍出来ました。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・区のダンスチャレンジやフラインドサッカーなど体育の授業以外でも交流しながら楽しんで体を動かす機会が今年度は取れたので、引き続き次年度も続けていきたい。 	
実現に向けた 共生社会の 推進	・特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常級と特別支援学級との共同学習5教科以上 ・すべての行事における交流 	80	90	B	<ul style="list-style-type: none"> ・支援級生徒で数学など得意な教科において通常級と授業を受けられる機会を設けている。学校行事においてはほぼ一緒に行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事で通常級の生徒と一緒に交流できることは両学級にとってとても良いことだと思えます。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習や宿泊学習、また、その事前・事後学習を通して互いを理解する姿勢を育んだ。また、通常級における支援の必要性について研修などを通じて学習している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事を通常級と一緒にすることはお互いに良い刺激を与えられると良いと思えます。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの行事で交流し、事前・事後学習（発表）など互いに理解を深める場が今後も多く設定していきたい。
	・特別支援巡回指導員や不登校巡回指導員、特別支援教室専門員、SC、SSWとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会（不登校担当、コーディネーター、SC、SSWと各学年主任）を隔週で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内特別支援委員会月2回実施（委員会ない週は教員を除く職員で情報交換） 	<ul style="list-style-type: none"> ・隔週で行う特別支援委員会は確実にしている。また、SCやSSWとも連携し支援が必要な場合はコーディネーターを中心に支援の方策など検討している。 	90	90	A	<ul style="list-style-type: none"> ・隔週で行う特別支援委員会は確実にしている。また、SCやSSWとも連携し支援が必要な場合はコーディネーターを中心に支援の方策など検討している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門の指導者が充実していると思えます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な支援委員会を実施することができた。この機会を通して情報共有や新たな支援の方法を探っている。 ・関係機関の中心に生徒対応にあたり連携がとれている。今後、教職員の別室や不登校対応などの制度を整えていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門の指導者が充実し、情報の共有もしっかりとれているようです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSWや不登校巡回、別室担当などの支援でどこもつながらない生徒が多いのは悲しい。今後も続けていくとともに、隔週の支援委員会の形を【話し・内容特化】で整えていく予定である。
	・標準服や校則の見直し、検討	<ul style="list-style-type: none"> ・暑さ対策とジェンダーレスを意識した標準服の検討や校則等の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・70周年（R9年度）を目標に検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・暑さ対策等は体操着登校の期間を長くとり、衣替え時期の廃止をするなどしており、標準服検討はアンケートを取って進めている。 	80	80	B	<ul style="list-style-type: none"> ・暑さ対策等は体操着登校の期間を長くとり、衣替え時期の廃止をするなどしており、標準服検討はアンケートを取って進めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ理解してもらえるようになれば良いと思えます。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度よりベスト、来年度より夏用ポロシャツを選択できるようにし、衣替えを廃止した。また、再来年度に向けて標準服検討を進めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・暑さ対策でポロシャツが使用できるようになったのは良かったと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度からは、夏はポロシャツを選択でき、来年度に向けてジェンダーも加味しながらさらに検討を重ねたい。
不登校の 対応の 充実 いじめ	・エンカレッジルーム（不登校別室指導）の利用方法などの円滑な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・エンカレッジサポーターや特別支援教室専門員と連携し、別室登校をスムーズにし不登校生徒数の減少を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校発生率5%以下 	90	90	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校のうち別室から教室に段階的に戻る生徒や、別室で定期学習に向けて継続していき生徒もいる。また、新規発生はほぼいない状態が進められている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりと向き合い子どもの意見も聞いてくれていると思えます。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・エンカレッジサポーターと担任との連携を深め、学習や進路指導に向けてしっかりと取り組める体制が確立してきた。学習に気持ちよくかかえない生徒の不登校が若干増えたが、今年度は教室に復帰できる生徒も多く、今後もつながりを大切にしたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと向き合い意見を聞いて改善方法を一緒に考えてくれていると思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・別室での様子などを担任と共有するなど、学習や進路指導に向けてしっかりと取り組める体制が確立してきた。学習に気持ちよくかかえない生徒の不登校が若干増えたが、今年度は教室に復帰できる生徒も多く、今後もつながりを大切にしたい。 	
	・教育相談の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート等をもとのした個別相談、教育相談（三者・二者面談）前の個別面談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ発生件数ゼロ 	70	80	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい月間におけるアンケートや区の事業をもとにしたヤングケアラー面談、SC面談など教育相談の充実を話し、いじめ事前対応は、早期解決につながるよう努めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談、教育相談などから生徒と保護者から意見を聞いてくれている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや教育相談を活用し、個人面談等を通して早期発見、早期解決に向け取り組み 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談などから生徒と保護者から話を聞いてくれていると思えます。事前防止につながる良いと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SCや農機教諭などに不安があるときに相談に行っている様子があるので、今後も話しやすい相談しやすい環境を整えていきたい。 	
	・生徒の様子を読み取る資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・L-gateや連絡ノートを通して生徒のつづきやきを大切に 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒の家庭訪問や見相への連絡生徒1人に対して月1回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートは毎日コメントを通してやり取りをし、L-gateで伝えることがあたらす再届けをしている。また、不登校生徒と月1回以上は対面して話せる機会をなるべくとっており、今年度はSSWと不登校対応巡回教員の協力もありほぼできている。 	90	80	A	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートは毎日コメントを通してやり取りをし、L-gateで伝えることがあたらす再届けをしている。また、不登校生徒と月1回以上は対面して話せる機会をなるべくとっており、今年度はSSWと不登校対応巡回教員の協力もありほぼできている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の生徒とは家庭訪問などで連絡を取っている。関係諸機関とも連携している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートは担任が毎日コメント活用できているが、L-gateの取組については担当が確保する体制となっている。今後もより活用について連携する。不登校生徒への対応は、SSWとも連携し、行うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の生徒達とは、関係諸機関、SSWと連携して対応していただいています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートで担任との連絡を取ることで、不安感なども書き出している様子だけでなく学へ連絡も活用できるようにしていきたい。
学校（園） 開かれた 地域社会に の 実現	・学校HPの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なホームページの更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・一週間の投稿件数平均10件以上 	60	60	C	<ul style="list-style-type: none"> ・適当な投稿件数は7～8件程度であるが、できる限り行事等は行ったあとすぐに、そして6稿の投稿。さらに、宿泊行事等では場面ごとの更新をすることができている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、給食などの写真やその説明も詳しく載せてくれていてとてもみるのが楽しみです。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・適当な投稿件数は目標に届かなかったが等々とすぐに、6稿の情報や宿泊行事等では場面ごとの更新をすることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事などの写真や説明を詳しく載せてくれていて、学校生活がよくわかります 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度同様行事後の掲載を早くすることにも学年行事でも載せていけるように連携している。 	
	・学校公開の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開でのアンケートの実施と改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校公開アンケートを実施とそれをもとにした改善策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開アンケートは、紙での実施のほかにQRコードを利用するものも取り入れている。アンケートを見たときに意見はできる限りすぐに検討し、対応している。 	90	80	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開アンケートは、紙での実施のほかにQRコードを利用するものも取り入れている。アンケートを見たときに意見はできる限りすぐに検討し、対応している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開でのアンケートをもとに改善策の対策を考えてくれている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開等のアンケートでは以前に比べて授業の落ち難い様子や先生方の取組内容についてよいコメントをいただくことが増えてきている。今後も続けていくようにしていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート関係に関しては、紙とQRコード併用する形を継続し、改善策とはできる限り早く対応していく。また、年度末のアンケートなどモデルなどで周知回収率をアップさせ改善策を多く収集したい。 	
	・学校関係者評価及び保護者アンケートの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・評価項目の見直しと課題改善策の話し合いの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての項目において肯定的回答80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度目の学校評議員会は入れ替わりもありほぼ全員が前を合わせた意見交換できた。アンケートの内容や詳細について、地域での生徒の様子など多岐にわたって話し合いをすることができ、ご支援の言葉及び肯定的回答も多かった。 	90	90	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一度目の学校評議員会は入れ替わりもありほぼ全員が前を合わせた意見交換できた。アンケートの内容や詳細について、地域での生徒の様子など多岐にわたって話し合いをすることができ、ご支援の言葉及び肯定的回答も多かった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会に全員出席できました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会には以前よりたくさんのご参加をいただき、また、生徒の暮らしに親子等にもお話を伺う機会もいただいている。70周年に向けての意見などありがとうございます。今後も引き続きご意見をいただき、ご支援の言葉をいただければ幸いです。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員の皆さんから、様々なお話をいただけるので地域の様子なども聞くことができず大変貴重な機会となりました。今後も残りやすい日を工夫しご意見をうかがう機会を増やしたい。 	
教育の 特色ある 展開	・食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマによる献立 ・給食試食会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ献立年間30回以上 ・試食会とともに保護者への食育講話及び学校保健委員会実施 	75	90	B	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りテーマによる献立は毎月30回程度実施されており、おいしく安全な給食が提供されている。給食試食会及び学校保健委員会は11月実施予定である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・給食室の前に写真や説明がされていて見るのが楽しみのひとつです。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ献立は年間75回提供することができた。 ・試食会では、参加していただいた保護者に朝食の重要性などを説明し、家庭での食育の協力をあおむね。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや給食室の前の掲示板で給食の様子をよくわかるようにして頂いています。家庭でも給食の話が増えました 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節行事や様々なメニューなどお家の放送と連携して興味をもたせたいだけでなく学へ給食を推進している。継続していきたい。 	
	・キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの充実 ・高校相談フェスタの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会年2回 	80	90	B	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回進路説明会は資料とPPTを用いて効果的に実施した。第2回は10月に予定。高校相談フェスタはPTA主催で月に実施し、生徒の進路を語る1日として実施できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高校相談フェスタではたくさんの保護者と地域の方が参加してくれました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回進路説明会では、PPTと冊子を用いて入試の内容について詳しく説明することができた。上級学校訪問や開業第一高校説明会を行うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高校相談フェスタの開催の参加により自分の進路について考える機会になっていると思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校相談フェスタや臨場体験、フタバ川一など将来について生徒が考える機会を今後も設けていく。 	
	・学校における働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間月60時間以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時勤務日（ノー残業デー）の実施など少しでも取り入れているが、行事前などは特に入社まで残っている必要が受けられる。授産ソフトなどの導入により多少は改善が図られる。 	50	55	C	<ul style="list-style-type: none"> ・定時勤務日（ノー残業デー）の実施など少しでも取り入れているが、行事前などは特に入社まで残っている必要が受けられる。授産ソフトなどの導入により多少は改善が図られる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・夜遅くまで対応していただいていることに感謝しています。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の補習など生徒のためになる取組がそのままだが勤務時間の超過については申請が申し出ていない。しかし、水曜日など早めに帰るとする生徒も少し見えてきたので定着させていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定時勤務日の年度当初からの設定などを実施し、意識を変えていけるように運営委員会などを通して呼びかけていく。 	